

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	夢門塾ゆうゆう相生 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8	(回答数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所は、保護者および訪問先施設との情報共有や連携を丁寧に行っており、関係者と協働しながら子どもにとって最適な支援環境を整えることができています。訪問時のやり取りだけでなく、フィードバックやモニタリングを通じて継続的に情報を共有している点が強みです。	毎月の職員会やカンファレンスを通じてPDCAサイクルを回し、支援の見直しや改善を行っています。職員全員が意見を出しやすい環境づくりを心掛けています。	外部研修や社内研修を継続的に活用し、職員の専門性を高めていきます。支援技術や知識のアップデートを図ることで、より質の高い支援を目指します。
2	職員間での情報共有や共通理解が図られており、個人対応ではなくチームとして支援を行う体制が整っています。日々の記録や会議を通して支援の方向性を確認し合い、支援の質に差が出ないよう努めています。	訪問前後には必ず打合せや振り返りを行い、その日の支援内容や気づきを共有しています。これにより、次回支援の質を高めることができています。	アセスメントやモニタリングの精度をさらに高め、子どもの変化や成長をよりの確に捉えられる体制を整えます。
3	記録・モニタリング・振り返りを丁寧に行うことで、支援の質を維持・向上させる仕組みが機能しています。支援内容を可視化することで、客観的な支援検討が可能となっています。	視覚支援や環境調整など、子どもの特性に応じた個別対応を意識しています。フィードバック時の環境配慮なども行い、安心して情報共有ができるよう配慮しています。	相談支援事業所や関係機関との連携を強化し、多面的な視点から支援を行える体制づくりを進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同一施設で複数児童を支援する場合、時間調整が必要となり、職員や施設双方に負担がかかることがあります。	人員配置や訪問スケジュールの制約により、柔軟な対応に限界が出る場合があります。	同日調整や効率的なスケジュール管理を行い、負担軽減と支援の質確保を両立していきます。
2	家族支援プログラムについては、訪問支援単体では実施機会が限られている状況です。	訪問支援という事業特性上、保護者同士の交流機会を設けることが難しい環境にあります。	児童発達支援事業と連動し、家族支援の機会を確保していきます。
3	訪問回数が少ないケースでは、十分な関わりや継続的支援が難しくなる場合があります。	訪問頻度が限られるため、継続支援の深さに差が出やすい点が課題と考えています。	支援ツールや提案の引き出しを増やし、短時間でも効果的な支援ができる体制づくりを進めます。